

Super Regional University

～高知大学の挑戦～



第6回高知大学フォトコンテスト 特別賞「舞え！」

国立大学法人高知大学
学長 櫻井 克年

- 平成元年7月 高知大学に赴任
- 平成16年4月 農学部副学部長・教育研究評議会評議員
- 平成17年4月 学長特別補佐、経営・管理推進本部長
- 平成18年4月 副学長（総務担当）
- 平成20年4月 理事（総務, 労務, 企画, 評価, 国際, 地域を担当）
- 平成30年4月～ 学長

学部・大学院（令和4年度）

- 6学部12学科 1課程
- 1研究科10専攻
- 1連合研究科
(愛媛大・香川大・高知大)

学生・児童等数（令和4年度）

- 学部生 4,925名
- 出身校所在県別入学状況
県内24%・県外76%
- 大学院生 516名
- 附属学校園 1,206名

予算規模（令和3年度）

- 総支出 371億円
- 運営費交付金収入106億円
- 授業料等収入 29億円
- 病院収入196億円

附属病院（令和3年度）

- 病床数 600床
- 入院延患者数 171,331人
(1日平均469人)
- 外来延患者数 248,962人
(1日平均1,029人)

教職員数（令和4年度）

- 全体 1,852人
- 役員 10人
- 教員 726人
- 職員 1,116人

国際交流（令和4年度）

- 国際交流協定
28の国と地域・96件
- 外国人留学生 90人

朝倉地区
人文社会科学部・教育学部・理工学部・
地域協働学部・特別支援学校・
次世代地域創造センター



フィールドサイエンス教育研
究センター（演習林）

小津地区
幼稚園・小学校・中学校

岡豊地区
医学部・附属病院



宇佐地区
海洋生物研究教育施設



※写真は保有する船舶

物部地区 農林海洋科学部・海洋コア総合研究センター



〔高知県を取り巻く課題〕

- ・ 高知県は少子高齢化や中山間地域対策など日本で深刻化する問題を約15年先取りした「課題先進県」
- ・ 南海トラフ巨大地震で想定される甚大な被害
- ・ デジタル社会の急速な進展による社会や産業構造の変化

〔高知大学のこれまで・これから〕

第1期 「地方の大学から地域の大学へ」

→第2期 「地域になくてはならない大学へ」

→第3期 「地方の大学から地域と協働できる大学へ」

→第4期 「地域を支え地域を変えることができる大学へ」

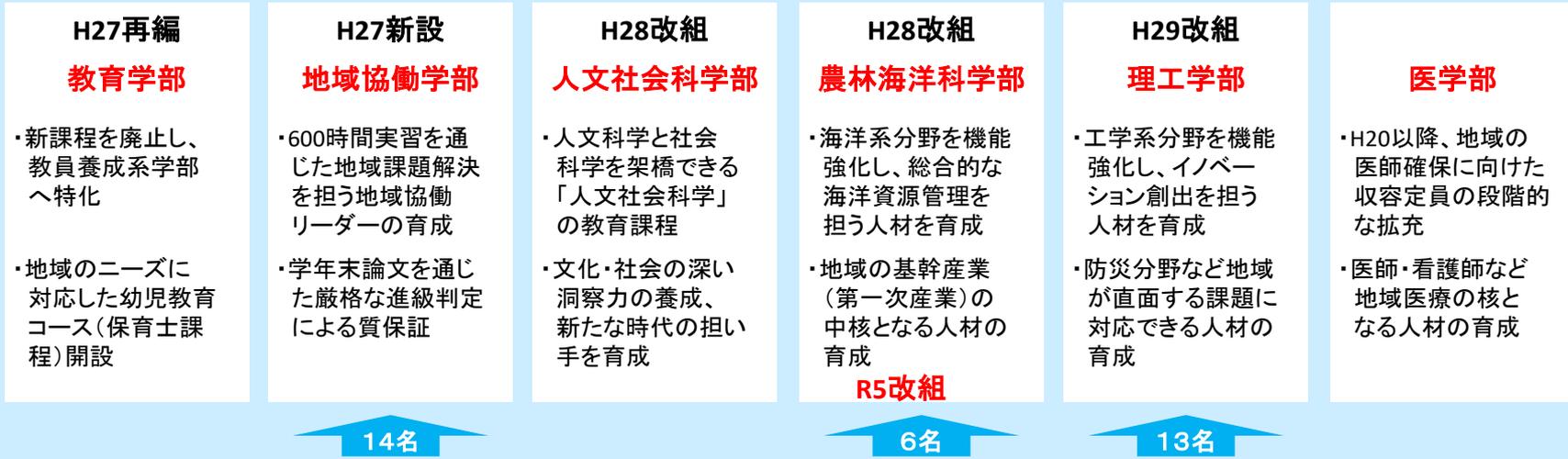
Super Regional Universityを目指す



地域で学び地域のあらゆる人に学びの場を提供するとともに、世界標準の研究力によって地域と世界をつなぎ、地域と世界を変えることのできる大学へ

入学定員・教員数の2割を「学長預かり」とし、強いリーダーシップの下で全学的な教育組織改革を実現

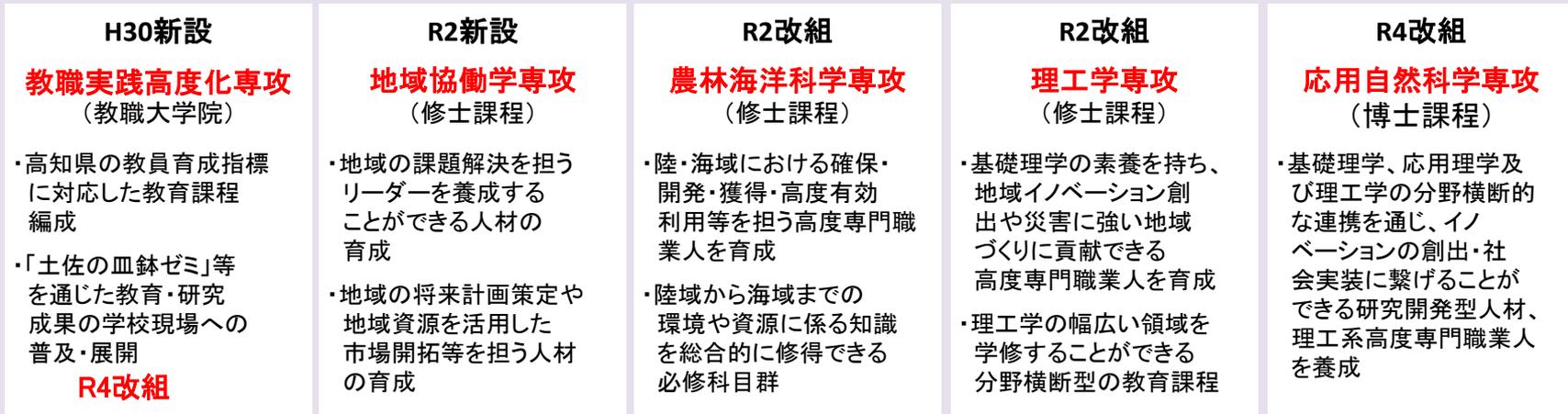
1st Step
学士課程



国立大学改革強化推進補助金等を活用した機能強化分野での大規模な教員採用(再配分)

1 研究科体制の下、学士課程の改革をさらに発展させる教育組織改革を実施

2nd Step
大学院



段階的な教育組織改革を通じ、Super Regional University に向けた原動力を創出

本日ご紹介する具体的な取組み

- 【1】土佐フードビジネスクリエータ人材創出(土佐FBC)事業**
: 科学技術振興調整費(H20~)
- 【2】高知大学インサイド・コミュニティ・システム(KICS)**
: COC 地(知)の拠点整備事業(H25~)
- 【3】まち・ひと・しごと創生高知イノベーションシステム**
: COC+ 地(知)の拠点大学による地方推進事業(H27~)
- 【4】地域医療を支える四国病院経営プログラム**
: 課題解決型高度医療人養成プログラム(病院経営支援領域)
- 【5】IoP(Internet of Plants)が導くNext次世代型施設園芸への進化**
: 地方大学・地域産業創生交付金事業(H30~)
- 【6】SAWACHI型健康社会共創拠点**
: 共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)(R3~)
- 【7】高知大学創立75周年記念事業**



高知県(土佐MBA)の食料産業の中核を担う専門的人材及び食料産業の拡充に資する基礎人材の育成事業

・土佐FBC(平成20～24年度)

文部科学省科学技術戦略推進事業
「地域再生人材創出拠点の形成」

同窓会組織・
土佐FBC倶楽部
の設置

・土佐FBCⅡ(平成25～29年度)

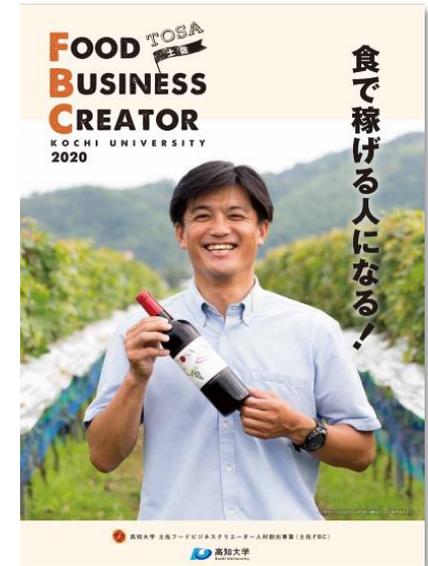
高知県(寄附講座)、県内自治体、銀行、JA等の協力により事業を継続

・土佐FBCⅢ(平成30～令和4年度)

県内食品産業に競争的優位性をもたらす研究開発人材の育成
企業の研究開発マインド向上、企業協賛金(広告)制度導入
内閣府「地方大学・地域産業創生事業」と連動

・土佐FBCⅣ(令和5～9年度)

アフターコロナにおいて座学・実習科目全てをオンライン化(全国から受講可能)
企業等の個別の目的、計画に合わせた指導を行う学術指導コースを新設



土佐FBCこれまでの成果

修了生※¹
659名

受講満足度※²
100%

累計経済波及効果※³
102.9億

※¹ R3年度までの修了生数

※² R3年度受講生アンケート「ほぼ期待通り」以上の回答率

※³ H20-R3年度

受講生の活動(Sコースの成果から)



高知発クラフトジン「マキノジン」の開発
クラップス 塩田貴志さん

佐川町出身の世界的植物学者、牧野富太郎博士が妻の名前から命名したスエコザサをキーボタニカルに、高知県産のグアバやショウガなど全12種類の原料を地元の焼酎に漬け込んで蒸留し完成させました。



日本初!“睡眠の質を高めるメロン”で機能性表示食品の届出
くだもの山長 山本博志さん

GABAを機能性関与成分とした高知県産生鮮食品2品『やすらぐマスクメロンfor Relax』『やすらぐマスクメロンfor Sleep』の機能性表示食品届出を完了させました。



日本初! 生搾りトマトジュースで機能性表示食品の届出
おかざき農園 岡崎秀仁さん

肌の弾力を維持し、肌の健康を守るのを助ける機能がある事が報告されているGABAを多量に含む機能性表示食品としての届出を行い、生搾りトマトジュースとしては日本初の機能性表示食品となりました。



受講生の食Pro.取得状況

※R4年度(R4年10月末時点)

	H28	H29	H30	R1	R2
Level 4			1		
Level 3			6	10	7
Level 2	14	9	1		
Level 1	5	1			

高知県では
土佐FBCでのみ
取得可能



土佐FBC-Sコース(R1~4年度)の開設

3期計23名
修了予定)

さらにプロフェッショナルを目指す!!

2年間で実践的な研究開発を行いながら、高付加価値で競争力のある商品開発能力を身に付け、研究開発マネジメントの専門家を養成するプログラム。
専任教員によるゼミ形式により、戦略策定から個別研究・学会発表までサポートし、受講生が主体的に研究を行う。

アドバンスド課題研究Sコース



土佐FBCにおける受賞

- (2014年度)
イノベーションネットアワード2014
文部科学大臣賞 受賞
- (2015年度)
産学連携学会 業績賞 受賞
- (2017年度)
「日本食品保蔵科学会」
ふるさと貢献賞 受賞



【2】高知大学インサイド・コミュニティ・システム (KICS : Kochi university Inside Community System)

平成25年度「地(知)の拠点整備事業」採択



高知県

地域課題が多様化
解決のための新たな切り口が必要

課題

キャンパスが県中央部に集中
地域からの「声」が遠い



高知大学

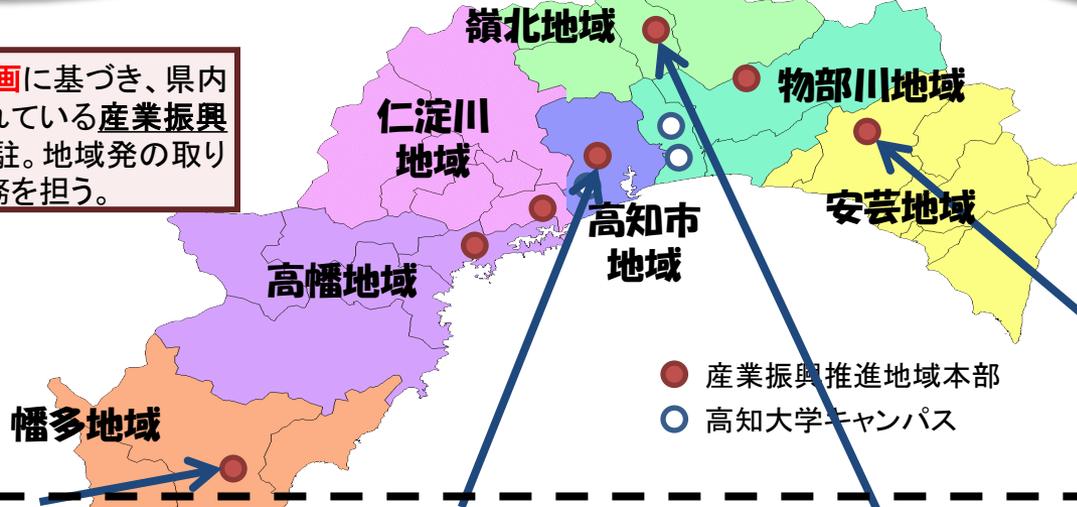
地域産業振興監・地域支援企画員とUBCとの連携による
新たな課題解決体制の構築

地域産業振興監
地域支援企画員

UBC: 高知大学地域コーディネーター
(University Block Coordinator)

高知県産業振興計画に基づき、県内7ブロックに設置されている産業振興推進地域本部に常駐。地域発の取り組みを支援する任務を担う。

産業振興推進地域本部にUBCサテライトオフィス及びサテライト教室を設置。UBC(特任教員)4名が常駐する。



- 産業振興推進地域本部
- 高知大学キャンパス



岡村 健志

幡多、高幡地域担当



大崎 優

高知市、仁淀川地域担当



梶 英樹

嶺北地域担当



赤池 慎吾

安芸、物部川地域担当



代表機関 : 高知大学

事業協働機関

連携自治体 : 高知県

大学等 : 高知県立大学、高知工科大学、高知工業高等専門学校

産業界 : 土佐経済同友会、高知県中小企業家同友会、高知県工業会、
高知県経営者協会

協力機関 : 高知学園短期大学





◆地方創生推進士とは



⇒ 地域に対する理解と愛情を有する自律的で協働能力を持った学生に与えられる称号

- ・令和3年度までに参加大学を含めてすでに201名を認証
- ・令和3年度卒業生の40%が県内就職（全学平均29.2%）
- ・高知商工会議所青年部と連携し、県内の中小企業と大学生のマッチングや交流を支援するカフェ「学生空間『One step』」を大学近隣にオープン（平成31年4月）

タウン誌に県内企業の魅力を紹介する連載協力やコロナ禍においても困窮学生への食糧支援やオンラインでの活動を活発に行っている。



「課題解決型高度医療人材養成プログラム」（病院経営支援領域） H29(2017)年度～R3(2021)年度 補助事業終了時学内報告

令和4年11月現在

取組大学：高知大学（連携大学：香川大学、高知工科大学、高知県立大学）
取組名称：地域医療を支える四国病院経営プログラム

○取組概要 国立大学病院などの基幹病院には、地域における外部環境と自院の内部環境を冷静に分析し、継続性のある企業体を維持するための戦略を構築する必要がある。経営とは、各種ステークホルダーの「納得解」の創出であり、そのためには多面的・複眼的視野が必須となる。地域特異性が高い病院経営では、ヒト・モノ・カネ・情報の経営4資源をバランスよく見定める経営の基本に加えて、地域の他機関との関係を良好に保つ“協調戦略”が必要となる。本プログラムは、四国唯一の公衆衛生学修士コースを母体としており、四国エリアの病院経営者や経営幹部が一堂に集まることで、四国エリアならではの経営課題を創出し、四国エリアの県民性や文化、歴史を熟知する各ステークホルダーによる“実践的な”解決策を見いだせる。本プログラムにより、「即戦力」を鍛えるカリキュラムを新たに導入することで、待ったなしの病院経営分野に突破力がある人材を送り込む。

H30年度より、病院MBAの内容を凝縮して提供することで、OODA(Observe、Orient、Decide、Act)を実践できる病院のトップマネジメントと現場責任者を養成するプログラムを開設。



プログラムの特徴

- ケースメソッド、課題解決実習が中心
- 他施設からの参加が容易
基礎的内容は高知大学で提供。各施設で「課題解決実習」を行うことにより、実務者のプログラムへの参加が容易である。
- 持続性を追求
独立採算を数年で実現し、補助金なしの運営を目指す。

修了者・受講者へのバックアップ体制

ホームカミングデー
(8月or9月週末セミナー内演習2コマ)

「厚生労働省教育訓練給付金制度」対象講座となり令和4年度受講生から適用

受講生の内訳

定員15名

▶ コロナのため
同期型オンライン活用

▶ 自走開始

職種	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
医師	5	4	5	3	7
看護師	5	3	5	5	4
医療従事者・事務職員	5	9	5	9	4
合計	15(12)	16(16)	15(15)	17(17)	15

()の数字は修了者数

シンポジウムの参加者数

H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
69	58	76	59	70

HPアクセス数

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
新規ユーザー数	1422	2,030	1,935	1,586
訪問者数	2525	3,049	2,734	2,443
ページビュー数	7516	8,115	7,500	7,126

【1】科学技術戦略推進事業「土佐フードビジネスクリエーター人材創出」 **S評価** 3/13 大学

（「科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会研究開発評価部会」平成20年度採択プロジェクトの事後評価結果（平成26年2月））

イノベーションネットアワード2014 **文部科学大臣賞**（2015年度）

産学連携学会 業績賞（2015年度）

「日本食品保蔵科学会」ふるさと貢献賞（2017年度）



【2】COC事業「高知大学インサイドコミュニティシステム」 **S評価** 7/76 大学

（「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業委員会」による評価（平成29年2月））



【3】COC+事業「まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステム」 **S評価** 12/42 大学

（「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業委員会」による評価（令和2年3月））



【4】地域医療を支える四国病院経営プログラム 中間評価 **S評価** 1/10 大学

（「課題解決型高度医療人材養成推進委員会」による平成29年度選定プログラム中間評価（令和2年3月））

これまで地域課題解決に貢献する地方大学の活動が我が国（一部は海外）におけるモデルとして高く評価されている

平成30年度地方大学・地域産業創出交付金事業（全国7機関採択）

○ 施設園芸農業の飛躍的發展

多様な園芸作物の生理・生育情報のAIによる可視化と利活用を実現

IoP (Internet of Plants) 等の最先端の研究

⇒ 栽培、出荷、流通までを見通したIoPクラウドを構築し、AIにより営農支援

高知大学IoP共創センター
(R3.10設置)

トップ人材招聘 [クロアポ・客員]
(京大・九大・ワーヘニンゲン大等)

《次世代型》

高収量・高品質

- 温度、湿度、炭酸ガス濃度など
ハウス内環境を見える化 → ほぼ手動で制御
- 次世代型ハウス
- 環境制御技術

進化

《Next次世代型》

超高収量・高品質化

高付加価値化

超省力化・省エネルギー化

IoP
クラウド

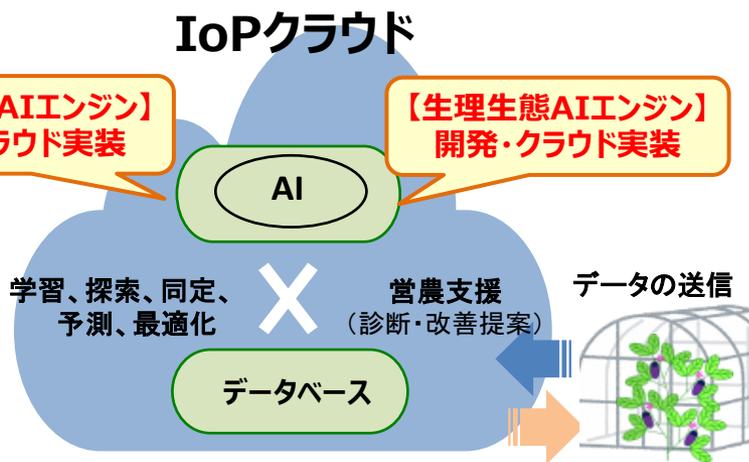
- 「ハウス内環境」+「生理・生育」の可視化
⇒ レベルに応じた営農指導 ⇒ 統合制御（自動化）
- 農家間の情報の一元化 ⇒ 産地全体としてSuper四定へ（定時、定量、定品質、定価格）
- 出荷量・出荷時期の予測、作業の効率化

○ 施設園芸関連産業群の創出・集積

⇒ 関連する機器・システムを開発し、県外・海外にも販売

○ IoP専門人材の育成

高知大学農林海洋科学部改組(R5~)
・1次産業DX推進
・地域枠設置



推進体制

高知県Next次世代型施設園芸農業に関する産学官連携協議会

【会長】濱田省司 高知県知事

【事業責任者】受田浩之 高知大学理事

高知県、高知大、高知工科大、高知県立大、JA中央会、JA高知県、工業会、IoT推進ラボ研究会、四国銀行、高知銀行、I o P 推進機構

K
P
I

- ① 野菜の産出額を130億円増加させる
- ② 新規雇用就農者を1,000人増加させる
- ③ 専門人材育成プログラム受講生の地元就職・起業数100人を達成する
- ④ 施設園芸関連産業群の集積：機器・システムを100億円販売する 等

- ・当初計画と展開枠の取組を掛け合わせることで「**地域課題解決×DX**」モデルを構築
- ・高知を拠点に世界を繋ぎ、地域と世界を変えることのできる大学へ

展開枠

●大学院改革

- ・展開枠での新研究課題「サステイナブル分野」を教育課程に反映

●他学部等との連携強化

- ・他学部との連携で大学全体のDS教育を強化



●トップレベル人材・海外連携強化

- ・ワーヘニンゲン大学、JADS大学、日越大学等
- ・関根泰氏、林健太郎氏の参画
(GX with IoP = サステイナブル分野)

●サテライト拠点群

- ・北海道大学、九州大学に
サテライト拠点



●IoP共創センター設立(R3.10.1)

- ・初代センター長はIoPの提唱者である北野雅治氏
- ・生理生態AIエンジン & 営農支援AIエンジン開発



高知大学

S=Super

R=Regional

U=University



●農林海洋科学部改組(R5.4.1)

- ・地域枠新設
- ・高度なデータサイエンス(DS)教育
- ・一次産業全体のDX推進に寄与する人材育成

JST共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)育成型(R3~R4)

デジタル治療薬開発を突破口とした、新しい地域共創実践の場

SAWACHI型健康社会共創拠点

“世界一健康づくりの楽しいまち”
を目指す室戸を、HealthTechの世界拠点に!

10年後の理想の地域社会像

- 限られた医療リソースでもいつまでも健康に過ごせる
- 子育て支援が充実し、子どもの声が溢れている
- 高齢化先進地の課題解決に貢献する

■ SAWACHI型イメージ

地域の課題

住みたいけれど住み続けられない...

- 人口急減 / 過半数が高齢者
- 医療機関や福祉施設の不足
- イベントや交流施設がない
- 教育や仕事の選択肢が少ない

ターゲット

- 地域レジリエントなプライマリケアの実現
- 新しいヘルスケア・低侵襲検診システムの実現
- 流行の兆しを掴む感染症警戒システムの構築

研究開発課題

- 医療・ヘルスケアPLR/PHR基盤の構築
- VRデジタル治療薬の創成
- 光線治療技術を用いたスクリーニング・診断・治療のシステム開発
- 変異体にも即応可能な超高感度迅速検出技術
- 疾病特異的糖鎖認識抗体様分子などを用いた新規診断手法の開発
- 環境配慮型メディシナルプラスチック新素材の社会実装



オープンイノベーション拠点 MEDI / 室戸サテライト / VRサテライト

ヘルステックの発展

SAWACHI型健康社会共創拠点での地域の健康課題解決

経済振興・人口増加

HealthTech スタートアップの誘致・集積

高知県室戸市

観光・地域資源

ジオパーク
廃校水族館
空海悟りの地
タラソセラピー

遊びに来るたび健康データが溜まるヘルスケア・ツーリズム

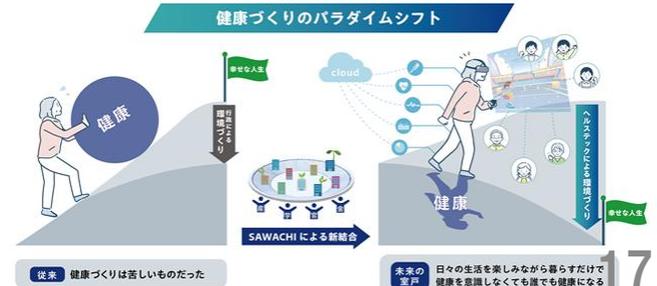
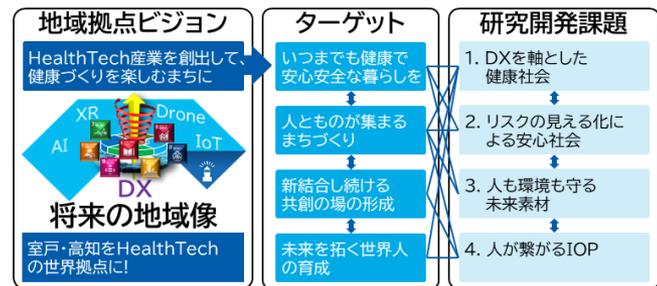
↓

地域で学び続け、働き続けられる生涯暮らせる定住の地



JST共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)本格型へ(R5~)

プロジェクトをさらに推進するため育成型で培ったステークホルダーとの関係性やノウハウ等を踏まえ、ターゲット・研究開発課題の見直し等、構想をより具体的に作り込み「同プログラム本格型」へ申請





創立75周年記念事業

交流の拠点機能を強化する取組み



- ・創立75周年(2024年)を迎えるに当たり、「高知大学校友会」を新たに組織し、本学卒業生の絆を再構築する。新しい高知大学交流の拠点機能を新たなネットワークが生み出す地域イノベーション創発の中核として位置づけ、高知大学の未来の役割をデザインしていく。
- ・高知大学を応援してくれる県民を増やし、県民が皆何らかのかたちで「高知大学生」になることを目指す。【県民が皆「高知大学生」構想】
- ・リカレント教育の拠点となることはもちろん、「コミュニティ・オブ・プラクティス」として、また様々な人財を巻き込む拠点として機能する。
- ・その他の具体的活動: 各種記念シンポジウム・広報番組・歴史アーカイブ・地方創生研究の紹介・よさこい演舞など盛りだくさんのイベント。



世代や地域を超えた強固な「新しいキズナ」を築く構想を固めていく。

高知の地になくてはならない大学
Super Regional University を目指して、

力強く、前進を続けたい！

ご清聴ありがとうございました。

